

影子の楽しいバレンタインナイト

すみくらまりこ

黒猫影子は
ますます元気。
よい目よい耳よい毛並み。

ちょっぴりやんちゃだけれど
楽しいことが好きな猫。
特技は分け身の術。

お正月も終わったし、
もう面白いことがない
ああ、つまんない、つまんない。

雪いっぱい野原で
分身たちと遊んでいても
すぐに飽きてくる。

影子は楽しかった夜々を
思い出している。
ハロウィン、クリスマス、大みそか・・・

巳子はカレンダーを見て云う。
「もうすぐバレンタインよね」
影子は分からない。

巳子の云うことは当たる。
何かが次にくる。
そう思った。

それは楽しいバレンタインナイト。
愛いっぱいのバレンタインナイト。

楽しい館、恋の館、
いろんなハートで飾ろうよ。

そしたらみな手伝ってよ。

骸骨さんの手は器用。
指はカシャカシャ動いて
ひとつひとつ作っていく

それは楽しいバレンタインナイト。
愛いっぱいバレンタインナイト。

魔女さん、葉巻をくわえ
チョコの抜き型を作っている。
フクロウ博士は
「恋ほど不思議なものはないぞ」と教える。

影子は俄然元気になる。
「それって食べられるの？」
「恋は食べられん。じゃが、チョコは美味しいぞ」

アルパカさんが遠くを見て云う。
「恋って不思議なきもちのこと。
ヒマラヤには彼が待っているの」

影子は、いらいらしてくる
「恋ってなによ。チョコだけで
いいじゃない。ねえ、作ろうよ」

だったら、まずは作ってみよう。
そんなこんなで調理場は
チョコレート工場だ。

それは楽しいバレンタインナイト。
愛いっぱいバレンタインナイト。

チョコレートがいっぱいできたころ
甘い香りに誘われて
夢子のお兄ちゃん「ちから」が来た。

それは楽しいバレンタインナイト。
愛いっぱいバレンタインナイト。

影子は目がハートになった。
心臓がドキドキしてきた。
「なんて、すてき・・・」

ちからが云う、「影子ちゃん、手伝おうか」
影子が答える、「駄目！ 絶対駄目！」
「なぜなの？」「それは秘密よ」と言い返す。

とうとうけんかになり
影子は泣きだした。
ちからは途方にくれている。

フクロウ博士が叱った。
「一緒につくりなさい。
助け合うことが愛なのじゃ」

泣きやんだ影子とちからは
チョコレートまみれになって
いっぱい作った。

「ともだちみなにあげよう。」
とちからは云う。
彼も訳が分かっていない。

巳子は、
「告白できるのは今夜だけよ」
と影子に囁く。

それは楽しいバレンタインナイト。
愛いっぱいバレンタインナイト。

影子は嬉しくて仕方がない。

尻尾がきゅっと細くなる。
チョコを手に思いきって云う。

「ちからくん、好き・・・よ」
「きみはなんでも一生懸命だし、
ぼくも大好きだよ。」

それは楽しいバレンタインナイト。
愛いっぱいバレンタインナイト。

フクロウ博士は云う
「いやいや良かった。ほっとしたよ」
巳子は
「影子、やるじゃない！」

そんなこんなで
これからチョコを真中にパーティだ。
ともだち全員集合だ。

分身したからだを集め
影子はひとつになっている。
ちからは、胸をそらしている。

それは楽しいバレンタインナイト。
愛いっぱいバレンタインナイト。

今夜は夜通し遊ぶんだ・・・

おわり